

特集

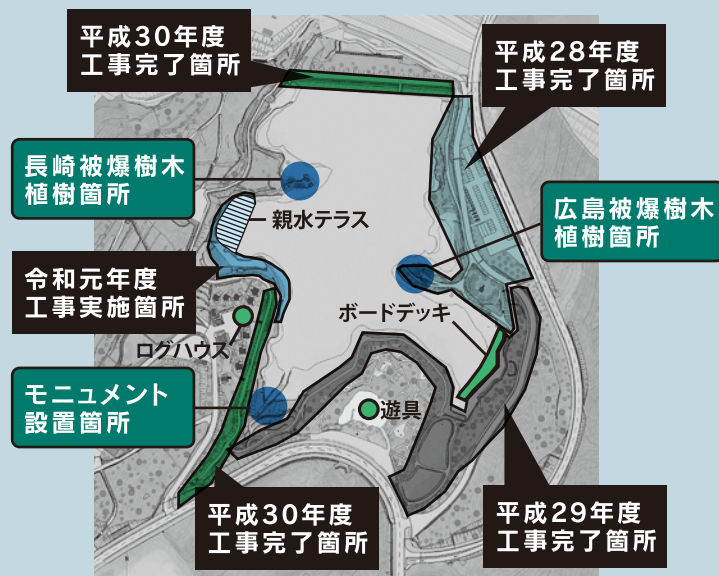
まちづくりの現場から

このコーナーは、九州一輝くまちづくりのため、上毛町第2次総合計画に掲げている事業のプロセスや課題などを紹介するものです。今月は、「新たな「顔」となる公園づくり」の特集です。

新たな「顔」となる公園づくり

公園整備の状況

大池公園の再整備は平成28年度から開始し、平成28年度と平成29年度に東側遊歩道と駐車場・ボードデッキの整備、平成30年度には大池堤体部分と西側のログハウス付近の遊歩道の再整備が完了しました。本年度は西側遊歩道の一部と新たに利用者の憩いの場とするための親水テラス(野外ステージ)を整備します。工事期間中は、公園利用者の方にご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。



《東側遊歩道》 大池の自然環境に調和するデザインとバリアフリーに配慮した整備を行っています。



《西側遊歩道》 西側遊歩道には、チュラローンコーン大学附属小学校と町内小学校児童の交流事業として、毎年紅葉の記念植樹を行っています。



上毛町大池公園から恒久平和の願いを未来へつなぐ

広島・長崎爆心地中間点上毛町

未来へつなぐ平和の架け橋事業

上毛スマートインターチェンジに隣接する大池公園は、大池を周囲するおよそ1500mの遊歩道とログハウス、アスレチック広場が設置されている自然豊かな公園です。町では大池公園を町の新たな「顔」と位置づけ、国内外からの誘客促進と観光振興はもとより、地域の活性化と新たな観光拠点づくりを目的として公園整備を段階的に行っています。

現在、第1段階の整備として遊歩道の再整備を行っており、この整備により老朽化して危険箇所が点在していた遊歩道がバリアフリー化され、利用者が安全で歩きやすい遊歩道に姿を変えています。

また、大池公園の景観を最大限に活かすため、ボードデッキの設置や景観を損なわない転落防止柵などデザインに配慮した整備を行ったことで、散歩やランニングに訪れる利用者が年々増えています。

町の健康づくりの一環として、ノルディックウォーク教室なども大池公園で行われています。

事業計画スタート

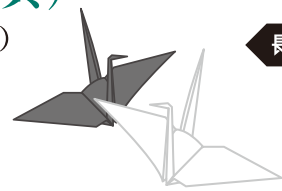
本事業は、令和2年に創立60周年を迎える広島東南ロータリークラブが記念事業の企画を検討している際に、実行委員長で被爆者の錦織さんが広島・長崎の爆心地の中間点に着目したことに始まります。錦織さんは気象庁の協力を得て爆心地の中間点が上毛町であることを確認し、長崎南ロータリークラブと協同で中間点に両市の被爆樹木2世※を植樹し、新たな恒久平和を発信する拠点になってもらいたいと相談に訪れました。

町では、両ロータリークラブの思いを受け止め、中間点から恒久平和への願いを発信する新たな拠点となることを決意し、本事業がスタートしました。

※被爆樹木2世
原爆投下で焼け焦げながらも生き延びた木々で、爆心地近くに親木があります。その種子や苗木が被爆樹木2世です。

平和記念事業(記念植樹式・記念式典)

- 日時 令和元年9月21日(土)(世界平和の日)
 - 記念植樹式会場 大池公園
 - 記念式典会場 げんきの杜
- 広島の高記念植樹 各1本
長崎の高記念植樹 イチョウ、クロガネモチ、エノキ 各1本
クスノキ2本、嘉代子桜1本



記念植樹は両市の被爆樹木2世を大池公園の東側を広島の高、西側を長崎の高とし、それぞれ記念植樹を行う計画です。また、両市の高を望む場所に町がモニュメントを設置し、本事業の説明と恒久平和の願いを発信します。

記念式典は2部構成で計画しており、1部では「広島・長崎爆心地中間点上毛町平和宣言」を行うほか、被爆樹木2世の献呈のお礼として千羽鶴を贈ります。また2部では被爆体験者である錦織さんの講演や広島に投下された原子爆弾を題材に、戦争や核兵器の恐ろしさを通して平和の大切さと戦争のない未来を願う創作劇を特定非営利活動法人「I PRAY」が演じます。